

ンを活性化するものです。いま一つは「ひとりひとりが想像力を磨き、自らの行動で最高の病院を目指そう」との運動です。具体的には「患者さんが困っている」「ご家族が怒っている」など様々な場面で、職員1人1人が、まずは自分が病院を代表しているとの意識を強く持ちながら、自分の一言で、あるいは自分の対応で「江別市立病院を最高の病院と言わせてみせる」という気概を持って対応しようとの運動です。掛け声のみに終わらぬよう、実践に秀でた職員を見出して表彰して、皆で見習う習慣を呼び掛けました。

経営改革と言いながら、地域中核病院としては十分と言えないことばかりです。医師不足、特に常勤内科医の不足はまだまだ深刻です。高度先進と言いつつながらダビンチも有りません。PET-CTも有りません。「あれが無いからできない」「これが駄目だからできない」と、それはその通りですが、だからこそ皆で「ほんの少しの工夫」を持ち寄って欲しいとお願いしております。「ほんの少しの思いやり」も持ち寄って欲しいと申しております。少しの工夫と思いやりが有れば、目の前の困難は必ず乗り越えられると思います。究極のアナログの精神は、信じる力を与えてくれます。

未だ緒に就いたばかりではありますが、高度のデジタル技術と究極のアナログ技術のハイブリッド医療である「高度先進地域医療」を、江別市立病院でなければ成し得ない医療として、あるいは全国に先駆けて江別市立病院が目指す医療として育てて行くことができると願っております。

「高度先進地域医療」に期待される近未来（図2）

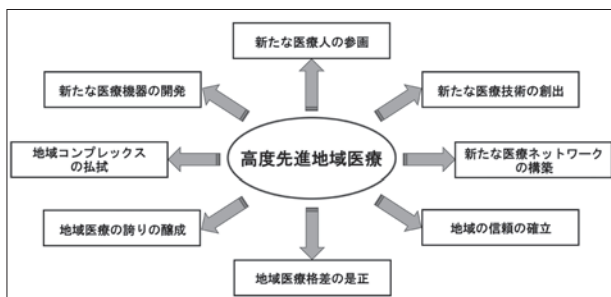


図2 高度先進地域医療の付加価値と期待される波及効果

「高度先進地域医療」を推進することにより、新たな医療技術の創出・医療機器の開発が刺激され、新規のネットワークが生まれ、まさに「高度先進地域医療イノベーション」と呼ぶべき展開も夢ではないと思います。また「地域医療」という言葉に負のイメージを抱く若い医療者は少なくありませんが、「高度先進地域医療」の概念を掲げて実践することが、地域医療・僻地医療に携わる医療者の謂われ無きコンプレックスを払拭し、誇りを持って地域医療に従事する拠り所にもなればと願うものです。「高度先進地域医療」の概念が、積極的に地域で活躍しようとする新たな医療人を生み出す契機になることを期待します。

さらに「高度先進地域医療」は、地域と都市部の医療格差の解消をはかるスローガンとしても機能する用語です。地域のデジタル環境を整え、先進性を追求することで都市部との医療格差の解消を目指すものですが、さらに進んでアナログ技術を究めその精神を研ぎ澄ますことによって、地域と都市部の医療格差はむしろ逆転させることさえ期待できます。地域の医療機関が「高度先進地域医療」を推進する医療機関として、そのステータスをアピールすることが地域の信頼をさらに確かなものとする、そうした未来を夢見て私たちの挑戦は続きます。

参考文献

- 1) 長谷部直幸:「高度先進地域医療」という考え方: 近未来のハイブリッド地域医療。日本医事新報 No5164, 2023, 4, 15
- 2) Abraham Verghese : A doctor's touch, (https://www.ted.com/talks/abraham_verghese_a_doctor_s_touch)



みんなで乗れば、
未来が変わる。

考えよう。行動しよう。公共交通の未来。

北海道医師会は、北海道鉄道活性化協議会（会長：北海道知事）の構成団体として、JR北海道をはじめとする公共交通機関の利用促進に協力しています。

会員の皆さまにも是非ご支援を賜りますようお願いいたします。

公式 Web サイト <https://www.hokkaido-rail-k.jp/>